



大明小学校

# 校長室から

令和4年2月1日

No. 14

文責 校長 穴山 直樹

## 次に備えて

植物学者の田中修さんは著書の「植物はすごい」の中で次のように書いています。「植物たちは、タネが出来上がると強い子どもが育つように、子どもたちを新天地へ放り出すのです。どんな環境に出会っても、強く生きていってほしいとの思いが込められているのです。新天地へ放り出される子どもたちも、その期待を担って親元を離れていきます。植物たちの親離れ、子離れのよさはすごいのです。」その「すごさ」に大いに考えさせられます。

学校生活の一年間を締めくくる3学期ですが、2月の声を聞くと次の学年へ向けての準備が大切になります。次にそなえるためには、「今」を知ることです。この一年間で子どもたちは大きく成長したのではないのでしょうか。見た目はよくわかりますが、見えにくい心の成長はどうでしょうか。それは子どもの様々な行動に現れています。友人関係はどう変化したでしょうか。読書傾向は、言葉遣いは、趣味やこだわりは、等々、子どもたちの何気ない様子をしっかりとみることも次への備えと言えます。「うちはまだまだ幼いから」や「いつまでもわかっているから大丈夫」と思っていると、思わぬ変化に突然驚かされることがあるかもしれません。子どもたちの成長に備えては私たちは親として何をどのように備えていけばよいのでしょうか。親になって30年近くになりますが、まだ答えは見つかっていません。

## 節分にて（昨年も紹介しましたが・・・）

節分とは、季節の分かれ目を指し、もともとは、立春、立夏、立秋、立冬の前の日のことをそう呼んだそうです。いまでは、豆まきの風習が残っている2月の立春の前の日だけを言うようになりました。立春とは、春が立つと書きます。はじめて春の気配が現れるという意味です。旧暦では、このころが、1年の始まりでもありました。そうはいつてもまだまだ、寒い日が続く時期ですが、日差しの温かさに春の訪れを感じ始める時期でもあります。節分には、昔の家庭では、柀（ひいらぎ）の枝に焼いたいわしの頭をさし、門の戸（玄関口）にはりつけました。

わが家でも節分には毎年玄関口や勝手口に夕食で食べたいわしの頭を置きます。その時いわしの頭にめがけてつばを吐き（ちょっと汚いような気もしますが、これが大切だと母親から教わりました）、そして「からすのくちばし、ツツツウツツウー」と大きな声でおまじないを何回か唱えて玄関に置いています。においのきついいわしの頭を置くことで家の中に悪いものが入り込まないようにしているとのこと。豆まきも隣近所に聞こえるような大きな声で「鬼は外、福は内」を行います。私は節分のこの習わしが楽しみで、春の始まりを感じてうれしくなります。今年は例年よりも大きな声を出して邪気を吹き飛ばしたいです。

## 不要になった硬式テニスボール

昨年度も保護者の皆様にお知らせしましたが、児童用のいすや机の脚に取り付けるための硬式テニスボールの寄付をお願いしています。不要になった硬式テニスボールがありましたら、学校への連絡をお願いいたします。本校にとってとても必要なもので、少しでもありがたいです。お待ちしております。